

【1】報告 (新例会場の件)

当AAFCの定期的な例会会場としては、今まで根戸小学校の地域交流教室を使用して来ましたが、生徒数の増加により教室に不足を生じることとなり、本年(二〇一〇年)の五月を以て使用出来なくなる旨、教育委員会からの連絡を受けるにあたり、皆様にも連絡を行い後継の場所でお心当たりがあれば、ご紹介をお願いすると共に、これに代わる会場の斡旋紹介を教育委員会に対してもお願いしておりますが、本年四月より第二、第四土曜日の午前・午後とも利用可能な会場として、湖北台西小学校の利用許可を得ました。

ただし、この会場では、機器類の常時設置は出来ない為、その都度機器の搬入と搬出が必要なこと、電車利用の場合、一時間に2本のダイヤに限定されてしまう不便さが避けられず、また、他の利用グループと共同使用となり隣りの教室と利用時間帯が競合した場合、他に迷惑が掛からないように注意する必要があります。

そのため引き続き、より利便性のある会場の斡旋を教育委員会に対して申し入れすると同時に、当会独自で会場探しを行っていたところ、根戸小学校手前の交差点(消防署の向い)にある市の管理下にある「つくし野自治会」で運営している「コミュニティ・ホール」が見つかり、取りあえず六月からの使用申し込みを行ったところです。

この会長との面談での感触では、機器類の常時設置が見込めるため利用出来れば、最有力先となるが、現時点で利用可能な曜日が、日曜日の午前中となり一部の方々は例会出席が困難となる難点も残されていることです。尚、この後も引き続き会場探しは継続して行く予定ですが、当面、不便を覚悟の上での運用止むをえない事をご了承お願い致します。

(新役員の内)

新年度に当たり、現在の役員は任期満了となるため、新役員候補につき白薦または他薦による会員よりの申し出をお願いしておりますが、締め切り日までとなたの申し出ておりました、二七日の例会時出席の皆様にご報告すると共に、本年度は一五周年を迎えるにあたり、周年事業の実施と、新会場の問題などもあるため、役員交代の一部のみに止め、周年事業のお手伝いをお願いするために二名の増員をお願いいたします。ご了承を頂きましたので、ご報告いたします。

交代理事 (新)鳥居 康信 (旧)宇多 弘  
周年事業理事(仮称)清水 俊一、後藤 榮一

会長より

『オーディオと私』

オーディオとの出会い

オーディオとか電気の世界に興味を持つたのはもう、昔のことで中学から高校の時に確か初歩のラジオを見て鉱石ラジオを作りたくて秋葉原に部品を買いに行つた思い出があるのですが、その時買ったのは雑誌に載っていた部品どうりに鉱石検波器とコイル用にボビンとエナメル線そして抵抗、コンデンサーを買つたと思ひます。その頃は当然に部品の名前の呼び名も判らずに店の人に訳のわからない注文をした記憶がよみ返ってきます。

そんなこんなで部品を集めて、それで雑誌の製作記事の通りに組んだらAMラジオ才放送の音がささやかな音量でクリスタルイヤホンから出てきて、夜中に布団の中で聞いて感激したものでした。そんなことで秋葉原のジャンク屋を見たのが運のつきで秋葉のジャンク屋や上野のアメ横に出かけることになりました。この頃は米軍の放出品がたくさんあつて店を見てまわつても見飽きることはなかったですね。

この頃は真空管から半導体に移り変わる時期でゲルマニウムダイオード、トランジスタが店で売られていて、真空管式とゲルマ式ラジオのキットやアンプのキットがあつて興味をそそられました。

AAFCとの出会い

今のこのクラブ「AAFC」を知つたのは三年ほど前で、コンサートの知らせを見たという近くに住む知人の誘いで我孫子駅前の「ふれあいホール」で開かれたコンサートとオーディオの実演を見て知りました。それまではオーディオクラブがこの様な企画の活動をしていることを知らなかったもので、一度例会と云うのに出てみて様子を伺うことにしました。それから2年がたちましたが、現在の印象はクラ

シックやジャズ、ポップスなどジャンルに縛られない幅広い知識を持つている会員の方々の興味ある解説とアンプ製作をはじめとした興味ある機材の製作品には趣味の広さを感じます。ハードウエアを主とする方々と映像を交えたソフトを紹介される方々のバランスの良い例会に出てこの会の姿勢に好感を持ちます。

アナログそしてデジタル

今の自宅は平成3年に都内から今の野田市に移り住むことになったのですが、狭い東京の家に比べ今の家は多少サイズアップ出来たため思い切つて自分の部屋を持つことが出来たので、今までは出来なかつたオーディオのスケールアップがやっとかなくなりました。スピーカーを入れ替え、アンプも作り変え出力アップを試みて低音の幅が延びており今まで聞いていたスピーカーの非力さがよくわかりました。

それから3年してマッキントッシュの古いメインアンプMC30を偶然に手に入れました。それはかなり古いもので音は出ませんし回路もそのときには判らず、直るかどうかは判らないままチャレンジして見ました。そして、どうにか回路図を手に入れて真空管ソケット、コンデンサー、抵抗などを交換し一応の修理が出来て鳴らしてみたらこの古いアンプが力強い音で鳴るのに感銘したことです。

電気特性を取つても、ハム、ノイズも少なく周波数特性も100KHZまで伸びる広帯域特性には感心し、また出力トランスの良さを痛感しました。このアンプは以前によく通つた今ももうありませんが(ふいあてるばうぜ)と云う喫茶店で、そこが閉店するときに譲つて貰つたものです。それからが又、真空管アンプつくりの後戻りし、その後一〇台ほどマッキントッシュの回路を真似た物や真空管式OTLなど作り、現在にいたつています。

今のオーディオの環境は電化製品のデジタル化の普及も相まってこの数年でデジタルオーディオの機器がかなり現実化してきました。その中で出力の大きな機器は今ではDクラスのデジタルアンプの世界に入つて来ています。HIFIの表現を目指してきた今までのアナログアンプの世界とはある意味では趣味の世界の違いを最初は感じていましたが、時代の流れでDクラスのアンプを今は受け入れるしかないと感じています。

それもあつて今はこのDクラスアンプにチャレンジしてはいますがなかなかの曲者です。それは予想通りで、回路構成がスイッチングのため発生する高周波ノイズはかなり出ますし、それと基板部品レイアウトで性能にかなりの違いが出て基板製作のむずかしさを実感しています。しかし効率のいい発熱のないクールなところは今までのアンプとはかなりの隔たりを感じます。しかしアナログオーディオはやはり捨てられませんか。真空管アンプを今後も作つて行きましよう。

鳥居 康信

写真はご愛用の機器類とオーディオルーム

